

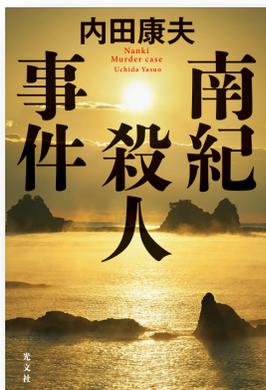
南紀殺人事件

四六判: 225ページ

出版社: 光文社

発売日: 2021年3月25日

内田康夫・著



〈『南紀殺人事件』とは〉

1990年から1991年にかけて、「別冊婦人公論」に「南紀ミステリー紀行」と銘打って掲載された、和泉教授シリーズ3編を収録した短編集。内田康夫は『熊野古道殺人事件』の自作解説で、「比較文学研究のマニアのために、いずれ三本の短編を（恥をしのんで）本にしたいと思っております——」と書いていました。そこで、内田が他界して3年となる2021年春、内田康夫財団では著者の想いを継ぎ、オリジナル3作品を収録した短編集『南紀殺人事件』として刊行する運びとなりました。

※「還らざる柩」と「鯨の哭く海」は初の単行本収録。

※「還らざる柩」と「龍神の女」は浅見シリーズの長編作品『熊野古道殺人事件』の元となった作品。

※「鯨の哭く海」は浅見シリーズの同名長編作品の元となった作品。

〈あらすじ〉

●「還らざる柩」

和泉直人の友人で教授仲間の松岡が、学生が企画した補陀落渡海の再現に立ち会ってほしいという。イベント当日、柩舟で漕ぎ出た渡海上人役の菅原助教授は、本当に還らぬ人になってしまう。

●「鯨の哭く海」

「くじらの博物館」で、展示してある勢子人形の背中に鉾が刺さっているのを発見した和泉夫妻。岬の一本道で忽然と姿を消した女性は幽霊なのか。

●「龍神の女」

和泉夫妻を龍神温泉まで乗せたタクシー運転手が死亡した。その夜、和泉は龍神温泉の露天風呂で赤ん坊をあやす妖しげな女性と出会う。

〈登場人物〉

和泉直人 (いずみ なおと) …… 大学の法学部教授。哲学出身の法律学者という珍しい経歴の持ち主で、犯罪心理学において世界的な権威でもある。その風貌や性格から、学生からの人気も高く、卒業した教え子たちは警察や検察の第一線で活躍している。

和泉麻子 (いずみ あさこ) …… 直人の妻。呑気でおっちょこちょいな性格だが、まっすぐ筋の通った思想の持ち主。夫婦で出かけた旅先で事件に関わることが多い。